

管楽合奏は楽しい会？

No.52 “シンフォニエッタという言葉を作った作曲家ラフ”

2019年(令和元年)5月19日(日)14時00分開演 北とぴあ・ペガサスホール

ロゼッティ (捷/1750~1792)

「パルティータ 第3番」全4楽章
(Ob)山本/土屋 (Cl)向山/兼氏 (Fg)森川 (Hn)皆川/市原

T.デュボア (仏/1837~1924)

「組曲 第2番」全5曲
(Fl)今井/信澤 (Ob)土屋 (Cl)庄子/向山 (Fg)尾作/山田 (Hn)市原

グーヴィ (仏/1819~1898)

「小組曲“ゴロワーズ”」全4曲
(Fl)今井 (Ob)土屋/楠原 (Cl)景山/庄子 (Fg)山田/辻 (Hn)鈴木/幸田

--- Intermission ---

エルガー (英/1857~1934)

「セレナード Op.20」全3楽章
(Fl)信澤/岡添 (Ob)楠原/土屋 (Cl)兼氏/庄子 (Fg)辻/尾作 (Hn)皆川/幸田

J.ラフ (独/1822~1882)

「シンフォニエッタ Op.188」全4楽章
(Fl)岡添/今井 (Ob)山本/楠原 (Cl)景山/向山 (Fg)阿部/山田 (Hn)鈴木/幸田

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/MC)森川 一 (もりかわ はじめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原暁氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし) 前半3曲を指揮

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。普段は某メーカーの会社員の身分のまま東大に駐在し、社会連携講座で代表共同研究員として研究室を切り盛りしている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。

(Fl)今井秀二(いまい ひでじ) 初参加!

小学校6年生の時、クラスの男子の間でなぜかフルートが流行り、町の音楽教室に通う。卒業文集に「オーケストラのフルート奏者」と将来の夢を書く。東京学芸大学管弦楽団、卒業後は幾つかの市民オケを経て、現在はガリマティアス・ムジクム(大学のOBオケ)、合奏団ZEROでアンサンブルを楽しんでいる。図らずも小学校時代の夢を叶えた。小学校の教員ではあるが、本業は「アマチュアフルート奏者のプロ」と一人心の中で思っている。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団(2009~2014は団長)で活動。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでは何とバストロンボーン兼コンサートマスターとして活動中。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学〜大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦文彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎市出身。中学でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年からハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、2014年から「管楽合奏は楽しい会？」に参加。オーケストラは合奏団ZEROに所属している。勤務先の病院では広報・図書室・院内コンサートなどの担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、シャンシャンの名付け親である。近頃は上野と和歌山に通い、子パンダの成長を楽しみに見守っている。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダンゲダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館“公募企画シリーズ”の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリスト代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)庄子穂奈美(しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl)向山尚志(むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974～2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。その後仕事で東京を離れた為、当会には2003年の松戸演奏会が最後だったが、2017年の演奏会から復帰する。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会?出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。最近新しい中古(?)の素敵なおハッセルを手に入れ、更に演奏を楽しんでいる。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)尾作拓郎(おさく たくろう)

神奈川県出身。法政二高等吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)辻 昭雄(つじ あきお)

法政二高吹奏楽部で法政大学、同大学院では同交響楽団にてファゴットを演奏する。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団及びフライハイト交響楽団、管楽合奏は楽しい会?に所属。普段は母校である法政二高で教鞭を採っている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hr)幸田理恵(こうた りえ) 初参加!

東京大学大学院農学生命科学研究科修了。在学中は東京大学音楽部管弦楽団に所属し、ホルンを須山芳博氏に師事。現在はアマチュア音楽家として、Orchestra Da Vinci、コンセル21管弦楽団を中心に活動。また声楽を里中トヨコ氏に師事。本業は、食品企業研究職を経てデータサイエンスの修行中。

(Hn)鈴木 彩(すずき あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大嘱託演奏員を経て、洗足学園大学演奏要員を勤めている。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜され、2016年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI喜歌劇「こうもり」に参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、嶋崎耕三の各氏に師事。

(Hn)皆川理恵(みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山 光三氏、富成 裕一氏、湯川 研一氏に師事。木管5重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン吉祥寺、柏 講師。またフリー奏者としても活動中

100回の定期演奏会を目指す、管楽合奏は楽しい会?ですが、未だ先は長く、プログラムも新奇な曲だけで構成とは行きません。しかし管弦楽や器楽でも、馴染みのある定番で構成するから楽しめるとも言えます。管弦楽の様に十八番とはならないかも知れませんが、管楽合奏もそうありたいと望んでおり、ラフのシンフォニエッタはそうあるべき曲だと考えております。発足以来何度も取り上げていますが、時や奏者が変われば面白さも変わる名曲です。そして他の曲も素敵な曲なのですが、聴いてもらわない事にはどうにもなりません、集客には毎度苦戦しておりますが、「食わず嫌い」を何とか出来ればと、こうして続けて来た訳です。演奏を通じて面白さをお伝え出来れば、成功かも知れませんが、最後までお楽しみ戴ければ幸いに存じます。

第53回演奏会は下記の会場と日時です。是非次回もお運び下さい
2019年12月22日(日)14時開演 深川江戸資料館・小劇場